



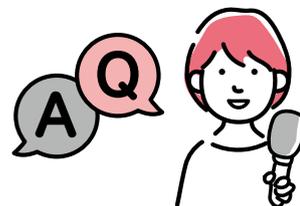
女性活躍の推進



“個人”を尊重できる社会へ

富岳館高校の生徒さんが、ジェンダー平等(SDGs項目5)や市議会議員補欠選挙で2人の女性議員が新たに誕生したことを踏まえ、女性のさらなる社会進出をテーマに、富士宮市議会の女性議員取材してくれました。

高校生から女性議員はどのように見えたのでしょうか。



議員と女性



佐野 心羽(さの もとは)さん
《富岳館高校》

- Q 議員になろうと思った理由を教えてください。
- A 【若林】女性議員が1人もいなかったこと、直接市に意見や要望を言いたかったからです。
- Q 議員の仕事は大変ですか？
- A 【近藤】議員の言葉には重みがあります。そこに責任を感じます。
- Q 男性と女性の間で差を感じますか？
- A 【臼井】若い世代の方ほど、男性、女性の固定概念が薄れてきている気がします。私たち議員は、その先駆けとなっていきたいと思っています。

Q 家庭と議員の両立は大変ですか？

A 【船山】私の場合は、子育てが終わってから議員になりました。今は健康寿命が長いので、子育てが終わった年齢でも、まだまだ頑張れると思っています。

Q 過去と比べて、社会的に変わったことはありますか？

A 【近藤】LGBTQIAや性に関する社会的議論が表面化してきていると思います。また、固定化された男女間の役割分担の認識が少しずつ変わってきているとも感じます。

Q 女性議員だからこそ、実現しやすかったことはありますか？

A 【若林】不妊治療や不育症への補助拡大。安定ヨウ素材の備蓄などです。予算的に大きな政策も大事ですが、生活に身近な課題を提起することができたと思います。



近藤 千鶴 議員



取材前のアイスブレイク



若林 志津子 議員